

交通カーボンオフセット研究会の概要

1. カーボンオフセットとは

商品・サービスの利用者が、その利用に伴い排出される温室効果ガスを他の場所での排出削減・吸収で埋め合わせるため、必要な資金を任意で提供し、それを原資に温室効果ガス排出権等を獲得することで温室効果ガスの排出をオフセット(相殺)する仕組み。運輸交通分野でも既に航空会社、バス事業者、宅配事業者、旅行業者等で導入例がある。

2. 研究会の目的

カーボンオフセットは、導入企業の温暖化問題への取組み姿勢をアピールする手段となるだけでなく、個人を含む幅広い層の自主的な温室効果ガス削減を促進する手段ともなり得る。

しかしながら、交通・観光事業者がカーボンオフセットを導入する場合、利用者負担金が少額な業種では効率的な徴収が難しかったり、個々の事業者が集めるオフセット金額は少額なため排出権の購入が割高となる等の課題がある。また、そもそも排出量算定方法について、統一的なものがない状況である。

そこで、昨年7月の「低炭素社会づくり行動計画」(閣議決定)を踏まえ、わが国の運輸交通分野においてカーボンオフセットの取組みを普及させるために、交通・観光事業者がカーボンオフセットを導入する際の諸課題を把握し、その解決方を検討する。

3. 経緯

	開催日	主な内容
第1回	平成20年12月4日	・国内動向に関する情報の共有 ・導入に際しての諸課題の把握
第2回	平成21年2月19日	・オフセット対象範囲の設定、排出量算定、料金設定・徴収方法等の検討
第3回	4月16日	・事業者ヒアリング結果等を踏まえて作成した、業種別排出量算定方法案の検討 ・支援システム案の検討
第4回	6月18日	・「交通・観光カーボンオフセット・ガイドライン(案)」のとりまとめ ・支援システム案のとりまとめ